

# 長野県社会福祉士会 NEWS

第196号  
2023/5/1



発行▶公益社団法人長野県社会福祉士会  
会長 上條 通夫  
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2  
長野県食糧会館6F  
編集▶広報編集委員会  
発行部数▶2,400部

TEL▶026-266-0294 FAX▶026-266-0339 E-mail▶info@nacsww.jp HP▶https://nacsww.jp/

巻頭言「つながり、思いや悩みを共有できる 地区活動を目指して」	1
東北信地区合同セミナー、地区総会	2~3
中信地区セミナー、地区総会	4
南信地区セミナー、地区総会	5

contents

特集『社会福祉士だからこそ読んでほしい！ おすすめのこの一冊』	6~7
リレーエッセイ	8
信州ぐるっと!!	8
今後の予定・入会状況・編集後記	8

## 巻頭言

## つながり、思いや悩みを共有できる地区活動を目指して

塩澤 宏之 (理事・北信地区支部長)

2019年度から北信地区支部長を引き継ぎ、併せて6月の定時総会で理事に就任してからの2期4年を振り返ると、まさに波乱万丈な任期でした。

手探りで地区活動を進めていた1年目の2019年10月、台風第19号により長野県内は大きな被害に見舞われ、特に千曲川の堤防が決壊した長野市をはじめとする北信地区は未曾有の被災により、会員の職務や会務にも甚大な影響をもたらしました。そんな中、多くの会員が、初めての経験に戸惑う暇もなく最前線で支援を必要とする人の避難や安全確保に奮闘しました。また、前年発足した長野県災害福祉広域支援ネットワークの災害派遣福祉チームの中核メンバーとして避難所支援等にあたるのと同時に、災害ボランティアセンターの運営から被災者の見守りや相談支援、地域コミュニティの復興支援の現場で会員相互のつながり、ネットワークを活かしながらソーシャルワークを展開しました。その実践から見た災害支援における社会福祉士の使命・役割をテーマに地区セミナーを企画し、2020年2月には新型コロナウイルス感染症により地区総会及びセミナーを中止せざるを得なくなり、先の見えない感染拡大により地区活動も支障を来たすことになりました。

2020年度に入っても状況はますます深刻化し、それまで当たり前のように会員が集まって開催してきた地区学習会もオンライン開催となりました。何とか地区活動を止めないように三役、役員で試行錯誤を重ねました。そこから見えてきたことはコロナ禍で支援者側の歩みが止まり、支援を必要とする人の福祉課題・ニーズがますます深刻化し、社会的孤立で支援が届かない実態がありました。2021年2月に地区セミナーを全県合同で開催し、コロナ禍での地域ケアをテーマ

として会員が直面する実態を共有しました。改めて専門職である社会福祉士として果たすべき使命・役割を考える機会となりました。

2021年度もオンラインと対面の併用で学習会を開催し、「新型コロナウイルス」(地域福祉部会)、「大人の発達障がい」(障がい者部会)、「ヤングケアラー」(子ども部会)、「家族支援」(高齢者部会)等の各分野で直面する新しい課題や日頃の実践における社会福祉士として大切にしている思いや悩みを参加者で共有し、お互いが語り、学び合いました。多様化・複雑化するニーズに対して、社会福祉士に期待されることは何かを考える場にもなりました。

オンライン導入により会員同士が対面で会う機会が減る懸念がありましたが、逆にこれまで会場参加が難しかった会員が参加しやすくなり、地区活動や役員会の参加者が増え、地区活動の活性化につながりました。2022年度は他地区や福祉活動委員会との連携による全県合同の学習会や研修も増え、会員の参加の機会が増えました。自然災害・コロナ禍においても中期ビジョンや事業計画に基づき、状況に応じた活動を進めることができました。

2期4年の任期のなかで、支援を必要とする人ばかりでなく支援者側にも孤立するリスクがあること、だからこそ「つながり」が必要であることが、当たり前ですが、極めて重要であると実感しています。支部長として困難な時代に私たち社会福祉士が持てる力を発揮するため、また会員同士がつながり、学び合う実践基盤である地区活動を止めずに続けることにより、少しでも役割を果たすことができたなら幸いです。次期役員につないで、さらなる地区活動の発展につながることを願っています。

## 多様化するニーズに対応する社会福祉士を目指して ソーシャルアクションと明日からの実践

2023年2月18日(土)、東北信地区合同でZoomにてセミナーを開催。会員からの報告をもとに、本会がこれまでに行ってきた活動・提言の解説、社団法人の意味や使命を確認。ソーシャルアクションを通じて見えてきた課題を共有し、ソーシャルワーカーに期待されることを学んだ。(参加者は68人)

### 基調報告①

#### 『公益法人・職能団体であることの意味と使命

— 長野県社会福祉士会設立30年を振り返りながら —

小池 正志 (長野県社会福祉士会 前事務局長)



専門職団体として今まで施策や対応に反省や自己批判をしながらも今後のあるべき姿勢・方向性を、決議・会長声明・政策提言や要望として発表してきた。職能団体として会員同士のネットワークづくりも大切だが「社会に対して要望を提言していけるか」も重要。声明の発信を目的化することなく、発信できない問題があれば会員に提起して本質を考え合うことが必要。

### 基調報告②

#### 『多様化するニーズに対応する社会福祉士を目指して

～ソーシャルアクションと明日からの実践～

宮本 雅透 (前理事・虐待対応委員会前委員長)



士(さむらい)として、どんな専門性をもって何と戦っていくのか…。社会の中で課題を把握したら、“社会福祉士としての私”が一人では単なる苦情で終わるかもしれないが、職能団体の会員が共同して行うことは意見表明・社会変革へつながっていく。

### 実践報告①

#### 身元保証問題と長野県住生活基本計画への意見提案

佐藤 もも子 (理事・福祉活動委員会委員長)



福祉活動委員会から発出した身元保証のプロジェクトチームの取り組みの中で課題を共有し、学習会等の活動を経てパブリックコメントを出し、県営住宅入居における連帯保証人要件の撤廃が実現することとなった。研修会、広報誌の発行を継続し、現在は身寄りに関わるガイドブックの作成にも取り組んでいる。ソーシャルワーカーは、地域の皆さんと物語を作っていく存在。ひとりのワーカーが担うのではなく組織として地域づくり、仕組み、社会を変えていけるソーシャルワーカーになりたい。

### 実践報告②

#### 権利の保障と障がいのある人もない人も共に生きる 長野県づくり条例への意見提案

吉澤 利政 (長野県社会福祉士会 副会長)



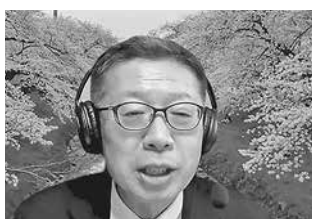
県民の理解を深めることに力点をおいた検討を行い、22項目を提案。条例の名前や文面の表現など提案の趣旨に沿ったかたちで条例に盛り込まれた。社会福祉士はいろいろな現場で仕事をしている。日常的な活動の中で障がい者の権利に問題意識を持ち、地域全体の課題として取り組んでいくことが大事であると感じた。今回のようにパブリックコメント等に積極的に参画し意見を伝えていくことで、社会福祉士の社会的評価や社会福祉士会活動の価値を高めていくことにつながる。

## トークセッション

トークセッションでは参加者を11グループに分け「明日から社会福祉士として、どうソーシャルアクションをしていくか」「どのような立ち位置でやっていくか」をテーマに、グループディスカッションが行われた。その後の、各グループからの発表も聞いて、声を上げることは大事なことだと気付いた。「これおかしいよね」の気付きを自分一人で終わらせないこと。そして、気付いたことに対して声をかける仲間がいることや気付きを持てることが大事。また、実践報告を受けて、いろいろな問題提起を一人で行っても苦情で処理されがちだが、バックグラウンドのしっかりした団体が行うことで提案・変革につながるということが理解できた。声を上げ続けることが大切だ。他の分野の人達とつながることも大事、等の意見も出た。

## 全体共有・まとめ

助言者 山口 光 治 氏 (淑徳大学 学長)



全ては一人の、あるいは一つの問題から始まっていく。一つの問題があったとしたら、こういう状況の人は他にもいるのではないかと調査をして、声をまとめて社会に働きかけていくことがソーシャルアクションにつながるのではないかと。そこで大事なのは人権と社会正義。社会福祉士は基盤に専門職としての価値をしっかりと置いていないといけない。価値と知識、技術の3つがそろって「専門性が高い」と評価される。

ソーシャルアクションのやり方は、パブリックコメントに限らず、さまざま。そのとき、専門職がアドボカシーなどと偉そうに言って当事者の思いと違う方向に行かないように、当事者を中心に置きながら伴走型支援をしていくということが大事ではないか。そしてソーシャルアクションの結果、当事者にとってどういうことが便利になったのかといった、事後評価を行うことも必要だと考えさせられた。

皆さんは職場での立場と、社会福祉士としての立場の「二面性」を持っていると思う。日頃から気づいたことを提案して、(上司などと)意見が違ったときは理解を得られるように説明していくエビデンスを持たなければいけない。ジェネラリストとして「専門ではないから分からない」ではなく、人権侵害があったら放っておけないという立ち位置で関わっていく。各会員の職場を超えた働きかけができるのも社会福祉士会の魅力。

今後も制度はいろいろ変わっていくし、新しい問題も起きてくると思う。人権と社会正義を基盤として行動を起こしてほしい。



### 東信地区総会

2023年2月18日、オンラインにて開催(委任状を含め167人の出席)。2022年度事業報告、2023年度の事業計画が承認。西澤支部長より、コロナに振り回された数年間は権利の部分にかかわることが多い年だった。面会制限、感染リスク、休校など…。2023年度より対面での交流会・研修会を復活し、会の継続を図っていきたくと話があった。2023年は久しぶりの対面での会活動を楽しみましょう♪

### 北信地区総会

2023年2月18日、オンラインにて開催(委任状を含め162人の出席)され、2022年度事業報告、2023年事業計画、次期役員について承認された。

2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大が続く中、オンラインにて役員会やセミナーの開催、また他地区との合同による学習会等地区を越えた会員相互の学び、自己研鑽の機会を持つことができた。地区会員数が前年度に比べ減少している。今後会員同士の交流や新しい会員への働きかけなど会の裾野を広げられるよう地区活動活性化に向けた更なる取り組みをしていきたいとの話があった。後半は、参加会員より近況報告や今後の抱負など情報共有を行った。

中信地区セミナーとして「子ども・家庭福祉について考える」をテーマに、2023年2月18日(土)に塩尻市市民交流センター（えんぱーく）を主会場とし、オンライン形式でセミナーを開催しました。今回は、中信地区会員の実践報告と松本乳児院、松本児童園について関係者から取り組みの報告をいただき、子ども・家庭福祉に関心のある方39人の参加者とともに学びました。

## 【報告①】 「中信地区会員の取り組みについて」

小林 哲 男（福祉活動委員会子ども部会）

松本地域子ども応援プラットフォームの概要と主な活動について説明があった。子どもの居場所や食事提供、学習支援など定期的に月1回以上提供し、長野県は「信州子どもカフェ」と呼んでおり、一般的に「子ども食堂」という。松本地域は松本、塩尻、安曇野地区に分かれ、ネットワークを組んで、実践報告や各種助成、民間企業等からの支援をプラットフォームで受け、各団体の活動を行っている。県下では、70の支援団体が登録し、立上げサポートも行う。生坂村での子ども食堂の取り組みについて実践報告があった。

## 【報告②】 「松本赤十字乳児院及び里親制度について」

樋口 忠 幸（松本赤十字乳児院 院長）他1名

松本赤十字乳児院は、児童福祉法に基づいた児童福祉施設であり、現在は0歳から3歳までのお子様11人をお預かりしている。乳児院の機能は従来の専門的養育や一時保護のほか、市町村や地域の社会資源と協働して地域の家庭における子どもの養育を支援し、里親委託を推進している。令和3年度からは、「里親養育包括支援事業」を長野県から受託して民間フォスティング機関となり、里親総合支援員を配置し、里親の募集やマッチング、委託後の支援まで里親支援を包括的に行っている。

保護者に代わって子どもを育てただけの養育里親（コミュニティ・ファミリー・パートナー）を育成している。里親を必要とする子どもの生活の場所は8割が施設であり、環境が整っていない状況。里親委託される主な理由は、虐待や放任怠惰、養育拒否等がある。里親として預かる年齢は1～2歳が多く、期間としては1、2年お預かりする場合が最も多い。

## 【報告③】 「児童養護施設 松本児童園について」

中島 優 子 氏（松本児童園 主任指導員）

松本児童園は児童福祉法に基づく児童の養護と退所後の相談および自立援助を目的とした児童養護施設である。長野県内には15カ所あり、約400人の子どもが施設で暮らしている。現在は児童虐待で入所する子どもが増えている。松本児童園には現在34人の子どもが入所し、中高生の入所もある。また地域に施設機能を広げ、一時保護やレスパイトケアなどを受入れている。現在は、グループ単位の生活や家庭的な生活を整え、地域の保育園や小中学校に通学している。小規模グループケアホームを2カ所（5人定員）運営し、令和3年4月に地域小規模養護施設（定員6名）ぽぷらの木を開設している。事情が許す限り家庭とも交流ができるよう一時帰宅や帰省をし、できない場合もホストファミリーと交流することで家庭生活を体験する。退所後の進学や生活などに関する自立相談が大事な仕事のひとつとなっており、課題でもある。原則18歳で退所だが、児童相談所と協議の上、22歳まで延長が可能である。令和6年度からは年齢制限は撤廃され、本人の意向と児童相談所の判断で生活が維持できるようになる。これからの児童養護施設のあり方としては、小規模化、分散化が求められる。高機能化及び多機能化への転換が必要。専門性を活かし、ケアニーズの高い子どもの療育の場。地域における児童家庭支援や里親等への支援が必要になる。

## 中信地区総会

2月18日午後1時から中信地区総会が開催された。中信地区の総会員数は301人で、うち委任状が141人、メイン会場とオンラインでの出席者が22人で合計163人となり総会が成立した。総会の内容は2022年度事業報告と2023年度事業計画、役員新体制について審議を行い、いずれも賛成多数で可決した。

来期は、新たな地区役員体制で臨むため、田中支部長から2期4年の任期を振り返ってのあいさつがあり、コロナ禍でのオンライン研修が定着し、全県での研修にも参加可能になった。今後は対面での交流を進めてほしいとの要望があった。押田新支部長からは新会員が参加しやすい地区活動に心がけ、特に若い世代も含めた会員同士、顔の見える交流ができるようにしていきたいと抱負が聞かれた。

南信地区学習会として2023年2月18日(土)にオンラインで開催し、今年度のテーマ『地域で暮らす暮らし続けるためには?』の2回目の学習会として令和3年度から「重層支援」の部署を立ち上げた飯田市福祉課 澤柳 八千江氏(課長補佐兼重層的支援係係長)、大澤 由佳氏(重層的支援係)から現場のお話を聞き、参加者同士で意見交換を行った。



飯田市の重層支援の必要性の解釈として ①地域の変化→地縁の希薄化 ②個人の変化→血縁の希薄化 ③社会の変化→社縁の変化、雇用の変化、職場環境の変化 ④制度の変化→サービスの充実、制度はあるが、少しのところでは制度にあてはまらない人、制度自体を知らない人がいる・サービスのなり手不足と様々な変化や壁をつなぐこと、支えること、超えることを係として役割があると説明があった。自分たちが主導的に動くのではなく、関係機関がそれぞれの今までの枠を少しだけ超えようとするように働きかける黒子的な役割を目指しているという。そのためにアウトリーチと関係機関との連携、支援会議を積み重ねる中で1つのケースを皆で考え続けることを積み重ねているという。

参加者39人で南信地区以外の参加者もあり、「重層支援」ということで、さまざまな問題を考える個人や家庭があるなか、自分たちだけでは解決できないことが相談できる場所があることはうれしいという意見が多く聞かれた。



## 南信地区総会

南信地区総会は、2月18日にオンラインにて開催され、会員総数288人の内、161人(当日出席者34人、委任状127人)が参加した。

原支部長他から今年度の事業報告、来年度の事業説明があるとともに、来年度の役員が紹介された。今後の活動については、会員になっていても委員会等で活動している人が限られていることから、会員数を増やすこと、さらに会員の中でも活動に参加する人を増やしていく必要があることについて話された。

総会後はグループに分かれ、少人数で自己紹介や普段の活動について話す等交流の場が持たれ、会員同士のコミュニケーションを深める場となった。

# 特集

# 『社会福祉士だからこそ読んでほしい！ おすすめのこの一冊』

## 北信地区

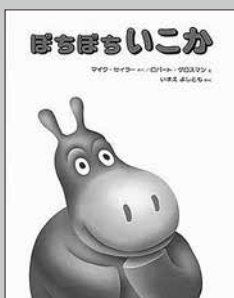


氏名：森田 靖子  
所属：社会福祉法人  
長野市社会福祉協議会

≪業務内容≫ 相談支援等

現在は、「おひとりさま」あんしんサポート相談室で、市民や地域の課題に向き合っています。

- ◎本の題名：ぼちぼちいこか
- ◎作：マイク・セイラー
- ◎絵：ロバート・グロスマン
- ◎訳：今江 祥智
- ◎出版社：偕成社



### ≪本の紹介≫

主人公は体が大きいかばさん。かばさんは、関西人！と思うような翻訳の絵本です。

あらすじとしては、かばさんは、やる気を出して次々に職業に挑戦するものの、全然うまくいきません。でも、かばさんは、どんな風になっても、どことなくのんびり、おっとり。

最後は「ぼちぼちいこか」・・・ということや。というお話です。

### ≪本の感想・社会福祉士としてオススメする理由≫

大学生の時に先輩からお勧めされた絵本。

うまくいくことばかりじゃない毎日。たまにはお休みも必要だけれど、うまくいかない、しんどい時こそ、あきらめず、投げ出さず、「ぼちぼちいこか」と、挑戦していけるようになりたい。そんな気持ちにさせてくれる人生にも通じるような絵本です。

がんばりすぎの社会福祉士に読んでほしいです。

## 東信地区



氏名：堀内 鈴江  
所属：介護相談センター  
まごころ

≪業務内容≫

施設の短期入所者・在宅のケアプラン等を作成しています。前職場を定年後、第二の職場で若い職員に支えられています。介護保険が始まる前から福祉の世界に〇十年、たくさんのご利用者・ご家族の人生に沿ってきました。同時に自分も勉強させていただいています。

- ◎本の題名：87歳、古い団地で愉しむひとりの暮らし
- ◎著者：多良 美智子
- ◎出版社：株式会社すばる舎



### ≪本の紹介≫

2020年から15歳の孫が撮るYouTubeが大人気になり希望に満ちた「ひとり老後」指南として出版され、今や12万部以上が売れています。こんなふうに年を重ねたいと多く聞かれています。作者の多良さんは7年前、自宅で夫を看取りました。その後の人生を「できないが増えるのは仕方がない。できることを楽しむ」を基礎に料理・手芸・読書・体操等に家時間を楽しんでいることが書かれています。

### ≪本の感想・社会福祉士としてオススメする理由≫

多良さんの人生も平坦ではなかったと思います。「老いは仕方がない、先のことはどうにかなる。日々前向きに今この時を楽しむ」を実行していることに多くの読者が憧れ、ベストセラーになったのだと思います。日々、日常生活に支障がある方の相談に応じ調整していく社会福祉士の皆さんに、常に前向きに人生を楽しんで行こうとしている高齢者がいることも知ってほしいと思い紹介しました。

それぞれの地域・分野で活躍する社会福祉士の方々からエールを込められた逸品をご紹介します。多様性を認め、前向きに人生を楽しみ、ぼちぼち行こうとまた一步一步。制度、立場や思いによる隔たり、そして社会経済の停滞は、さらに社会福祉士の活躍が必要な時代に。お勧めの本から、あらたなヒントを得られるのではないのでしょうか。

## 中信地区

氏名：新保 絵里  
所属：社会福祉法人  
          中信社会福祉協会



### ＜業務内容＞

私の所属している法人は、松本市で障がい者の入所施設、グループホーム、通所事業所、相談支援センターを運営しています。私は、グループホームのサービス管理責任者、相談支援専門員を経て、法人本部で経理事務を担っています。

◎本の題名：  
障害者支援員もやもや日記  
～当年78歳、今日も夜勤で、施設見回ります～

◎著者：松本 孝夫

◎出版社：フォレスト出版



### ＜本の紹介＞

会社倒産を機に70歳を目前にして就職した著者にとって、障害者支援員の世界は「これまでに見たこともない人間の不思議な景色」。勤務のなかで、障がい者が置かれた厳しい立場や、偏見に苦しむ親の思いを知ります。「綺麗な事の通用しない世界」がありのままに描かれています。

### ＜本の感想・社会福祉士としてオススメする理由＞

著者は福祉の専門教育を受けていませんが、その社会経験や知識から提案されるエンパワーメントや意思決定支援の方法は、私には思いつきもしないもので、支援者に多様性が必要であることを強く感じました。背景にあるのは他者を尊重する気持ちと熱意。初めて福祉の仕事に就いたときの新鮮な気持ちが呼び覚まされました。

## 南信地区

氏名：伊藤 憲司  
所属：社会福祉法人  
          りんどう信濃会  
          はらむら悠生寮



＜業務内容＞ 生活支援員

◎本の題名：護られなかった者たちへ

◎著者：中山 七里

◎出版社：宝島社



### ＜本の紹介・本の感想・社会福祉士としてオススメする理由＞

養成校当時、社会保障のレポート課題で生活保護を調べました。その中で、生活保護制度は最後のセーフティーネットであると同時に、申請時に弾かれたり遠慮から申請すら控える等、本当に必要な方が受給できていない反面、いわゆる反社会勢力や網の目をくぐり抜けた人が恩恵を受けていると知り、制度の矛盾や課題に憤りを感じたことを覚えています。

そんな制度の課題を中核にした連続殺人ミステリーを柱に、貧困、触法者の社会復帰、母子家庭や高齢者問題、大震災等を取り上げています。われわれ社会福祉士が直面するさまざまな課題に焦点が当たった本と言えるのではないのでしょうか。



## 「続・地域密着型消防団員ソーシャルワーカー」

蒲生 俊 宣（上田市川西地域包括支援センター）

2020年1月号でリレーエッセイを寄稿させていただきましたが、わずか3年で戻ってきてしまいました。何を書いたものかと思案しましたが、前回の内容の続きを書かせていただきたいと思います。

前回の寄稿から約3年、相変わらず消防団活動に精を出しています。この間にも多くの火災や行方不明者捜索に出勤してきました。この活動をしていると、多くの方々の“暮らし”が見えてきます。先日畑の土手を焼く野火火災に出動しました。高齢の夫婦が土手焼きをしていたところ、風に煽られて延焼し、手に負えなくなったところを通報されてしまったようでした。警察官から「火をコントロール出来ないなら、もうやっちゃ駄目だよ！」と叱られている高齢夫婦の後姿を見て、「代わりにやってくれる若い人はいないだろうか？ 不安でもやらざるを得なかったんだろうな…」と、少子高齢化社会の縮図を見るようで少し切ない想いになりました。

消防団には多くの職種の仲間がいます。同業のソーシャルワーカー、薬局の薬剤師、ケアマネジャー、行政書士、看護師、大学生、理学療法士、健康運動指導士、医療福祉分野以外にも多くの力を持った皆さん、自治会長、公民館役員、民生児童委員、市議会議員や県議会議員になった方もいます。この広大な消防団ネットワークを活用して、多くの方々の“暮らし”を守る地域包括ケアシステムの一翼を担うことが出来ないものか…と日々思案しながら、今日も元気に地域を飛び回っています。



\*次号は、長野大学実習室 白砂 歩さんにバトンタッチします。

## 信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

### たかぎショッピングツアー

川野辺 美 夏（喬木村役場 地域包括支援センター）



喬木村では、高齢者単身世帯、高齢者夫婦世帯が年々増加しています。また、免許返納により外出頻度が減少した、バス停まで歩けない、バスの乗り方がわからないという方々が買い物に困難を感じ

ていました。

買い物は日常生活にとって欠かせないものであり、介護予防の効果や生活支援の一部でもあります。そのため、喬木村では買い物に困難を感じている方を把握するため全村にアンケート調査を行い、買い物支援の仕組みを第一層協議体で議論しました。

その後、社会福祉法人と協働し、実証運行地域の設定やボランティア、利用者等の募集を行い、令和4年度、自宅から店舗をつなぐ実証実験を行いました。

参加者に大変好評で「目で見て商品を購入できるのでうれしい」「荷物を家まで運んでくれる」「人と会って話ができるので楽しみ」という声を頂いています。また、初めてボランティアに参加する方や男性の運転手ボランティアがいました。ボランティア自身も楽しんで実証実験に参加でき、地域の新しいつながりができたことが印象的でした。

今後は団体設立を行い、ショッピングツアーの本格運行を目指しています。



#### 【2023年度会費の口座振替について】

2023年度の会費を5月12日(金)にご指定の口座から振替させていただきます。振替日が近づきましたら、ご指定口座の残高をご確認ください。

#### 【長野県社会福祉士会ホームページ リニューアルのお知らせ】

長野県社会福祉士会のホームページを4月よりリニューアルしました。以前よりも見やすく、使いやすくなっていますのでご利用ください。なお、会員ログインのIDとパスワードに変更はありません。

## 今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<https://nacs.w.jp>) をご覧ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
6月3日(土)	定時総会・福祉まるごと学会	オンライン	
7月9日(日)	ソーシャルワーカーの使命・専門性・可能性を考えるフォーラム	オンライン	講師：尾上浩二氏

◎ 入会状況（2023年3月末現在） \* 会員数：1,180人 入会率：25.28% 人口10万人あたりの会員数：58.04人

## 編集後記

本会は、昨年30周年を迎えました。各地区会員が、日々の実践とつながりのなかからソーシャルワーカーの専門性を高め、県下4地区のセミナーでは、県民福祉の向上のための様々なソーシャルアクションを行いました。社会福祉士の専門職として、プライドを持って、権利擁護推進のために一步一步進みましょう。（K.O）